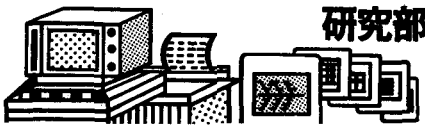

研究部会報告

◎システム最適化◎ 特別講演会

(第2回関西支部講演会を兼ねる)

日時：11月13日(水)13:00—15:00

場所：大阪大学工学部応用物理学科　3階講義室　**出席者**：25名

題目：Asymptotic behavior of statistical estimator and solution of stochastic optimization problem with incomplete information

講演者：Professor Roger Wets (University of California, Davis)

(内容)　Wets 博士は確率計画法の大家としてあまりにも有名ですが，この時は統計的推定の考えを確率計画法に応用した新しい展開について話された．

• 第4回

日時：12月17日(火)14:00—17:00

場所：帝人ホール(堺筋本町)　**出席者**：10名

(1)「Finding All Extreme Partitions of Linear Diophantine Polyhedra and Its Application」材　芳男氏（甲子園大学）

(2)「財政の最適運営」吉田和男氏（大阪大学経済学部）

(1)は線形方程式系の非負整数解を考察し，対応する凸多面体の端点等の性質について話された．一方，吉田氏は大蔵省から阪大に出向しておられ，国債のかかえている問題を中心に財政をどのようにすべきか話された．

◎地域政策◎

• 第1回

日時：6月14日(金)18:00～20:30

場所：日通総合研究所会議室　**出席者**：10名

テーマと講師：ベンチャービジネスと地域産業政策　増田辰弘（神奈川県工業貿易課）

内容：ベンチャービジネスの意義および最近の動向を神奈川県の地域産業政策とのかかわりを中心に展開した．

第2回

日時：昭和60年9月20日(金)18:00～20:30

場所：日通総合研究所会議室　**出席者**：10名

テーマと講師：情報産業の将来予測　大平号声（電気通信総合研究所）

内容：情報産業の計量経済分析によって，21世紀における情報化の動向を情報産業に従事する職業の新しいタイプと分類して，予測したものである．

• 第3回

日時：11月1日(金)18:00～20:30

場所：日通ビル4F（日通総合研究所会議室）

出席者：10名

テーマと講師：東京の都市計画の歴史　堀江　興（東京都都市計画局街路計画課長）

内容：明治，大正から昭和20年代に至る東京の幹線道路整備計画の変遷について，堀江氏の論文を参考資料としながら道路行政への考察を含めて説明された．

• 第4回

日時：12月9日(月)17:30～20:00

場所：日通総合研究所会議室（日通ビル4F401号室）

出席者：17名

テーマと講師：地方自治のタテマエとホンネ——ORの役割　小笠原　暁（芦屋大学教授，元兵庫県副知事）

内容：小笠原氏の兵庫県庁在職中従事した企画行政，情報行政を中心に地方行政の政策決定プロセスとその合理化の方法を実例をふまえて討論した．

◎政策科学（関西）◎

• 第6回

日時：昭和60年11月15日(金)14:00～16:30

場所：芦屋大学　福山記念館Bホール　**出席者**：9名

講演者および講演題目

(1)「金融の自由化　国際化について」谷　徳憲（太陽神戸銀行　調査部）

(2)「海外のテレコム事情」小笠原　暁（芦屋大学）

要旨

(1) わが国の金融機構の特徴，世界的な国際化の潮流とわが国独自の国際化の要因を述べ，為替管理政策，制度面および統計資料からわが国の金融国際化の進展状況を概観している．金融国際化の問題点を国際化，自由化

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

の進め方，従来機構の特質，金融政策の効果の面から整理し，今後の対応が述べられた．

(2) この秋ヨーロッパ，米国のテレコム関係を視察して感じたことは，全体的にみればテレコム関係の進み具合はどこもそう差はないが，欧米と日本の信念や精神的風土の違い，つまり欧米は信念が先でともかくやってみるのに対して日本の慎重すぎるコンプリート志向による特徴的な差がみられることである．個々にみれば，ヨーロッパのＩＳＤＮの進み具合は日本のＩＮＳとそう差はない．ビデオテックスの普及状況もフランスのミニテルを除けばどこも同程度．テレコンファレンスは試験段階といえる．

◉政策科学◉

• 第21回

日時：11月16日(土)14:00～17:00

場所：三菱総合研究所　**出席者：**12名

テーマと講師：

①「教育政策の問題点を実証的に分析してみれば」

沢　勲（関西大学）

歴史的に眺めてみると，精神文化と科学技術とが相互にその重要性が入れ替ってきたが，大切なのはそのバランスであるという基本認識のもとに，大学経営および将来性にまつわる話題をデータに裏打ちされつつ論じた．大学もサービスを忘れてしまっては危ないと結論づけた．

②「政策科学における折衝と葛藤について」

富沢健一（新陽工業）

コンフリクトを取扱った論文を検索しても，公害・経済・土木計画にはそのありさまを述べたものはあるが，その構造――成立から解消にいたるまで――を述べたものはない．これは，発表される研究は，論文になりやすくするため，そのテーマに矛盾のない問題として扱っているからであると述べて，表題について400万件の研究発表から各種のふるいをかけて文献リストを作成し，それを紹介した．

第22回

日時：12月21日(土)14:00～17:00

場所：三菱総合研究所　**出席者：**10名

テーマと講師：

①「企業サイドからみたテクノポリス」

石井允夫（長野計器製作所）

テクノポリス(ＴＰ)構想を簡潔にまとめて解説し，建設しようとするＴＰが成功し永続性を保つためにはという観点から，高齢化・身障者雇用・福祉等との関連において，企業経営者としてコメントした．さらに，地方の特色をどう盛り込むか，テレトピアとの関連性，母都市（副次都市）への人口集中対策には，智恵を結集する必要があるという問題提起を行なった．

②「台湾におけるある合弁企業に勤務して」

小林守信（日本スタナダイン）

新工場建設の責任者として台湾に滞在し，采配を振ってきた経験をもとに，実感としての『台湾事情』を説明した．台湾の経済水準，労働者の処遇，現地に長く滞在しても日本人には理解できないことがあり，戸惑いを隠し得なかった点には参加者の興味が集まった．

◉新社会システム◉

• 第6回

日時：12月12日(木)15:30～17:30

場所：北海道電力㈱　**出席者：**35名

テーマと講師：北海道における物流の現状と課題

竹村豊平（北海道物流合理化協会）

北海道における物流システムの歴史と現状，そして最近の動向が説明された．特に，北海道における経済・物流の特殊性との関連で，今後いかに物流の情報システム化をすすめていくかが課題である．

• 第7回

日時：1月28日(火)16:00～17:30

場所：北海道電力㈱　**出席：**20名

テーマと講師：北海道の工業生産と主要都市の課題

――札幌市と室蘭市を中心として――

原田　実（たくぎん総合研究所）

北海道の2大工業都市である札幌市，室蘭市における工業構造について，その課題と新たな動きについて，具体的な事例と数字をもって説明していただいた．新たな動きとして室蘭市の情報関連産業の萌芽が注目される．

◉意思決定のための会計情報◉

• 第22回

日時：12月14日(土)13:30～16:00

場所：慶応義塾大学理工学部管理工学科

出席者：8名

内容：

(1) パーソナル・コンピュータ上での経営意思決定支援システムの作成

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

（慶応義塾大学　佐々木達人）

(2) 事業戦略シミュレーション・モデルにおける諸変数の関連図の作成

（玉川大学　伊藤和憲）

• 第23回

日時： 1月25日(土)13:30～16:00

場所： 慶応義塾大学理工学部管理工学科

出席者： 7名

内容：

事業戦略シミュレーション・モデルについての検討

（玉川大学　伊藤和憲，東京理科大学　山口俊和）

事業ポートフォリオ・マネジメントをサポートするための財務計画モデルに関して，初期条件・パラメータ・政策変数の入力方法，および，製品製造原価報告書・損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー表等の出力方法について検討が行なわれた．

待ち行列

• 第18回

日時： 12月14日(土)14:00～16:00

場所： 東京工業大学(情報科学科会議室)

出席者： 29名

テーマと講師：

• Q18—1 Random processes in queueing networks (D. Konig, 東独・フライベルグ鉱山大)——Queueing network の出力過程，入力過程の確率過程的な考察．(SIAM Review, vol. 27, no. 2, pp. 335-403 参照)

• Q18—2　2呼種異保留時間モデルのあふれ呼特性(町原文明・NTT通研)——平均サービス時間の異なる2種類の呼が加わる即時系モデル (M, M/M, M/S) からのあふれ呼特性の解析と数値特性の報告．

• 第19回

日時： 1月18日(土)14:00～16:30

場所： 東京工業大学(情報科学科会議室)

出席者： 30名

テーマと講師：

• Q19—1　指数分布形モデル状態方程式の位相形モデルへの自動変換法(林　善士・NTT通研)——到着間隔やサービス時間が指数分布の場合の状態方程式を，計算機で自動的に位相分布モデルに拡張する方法．

• Q19—2　$GI/G/c/N$ 待ち行列の拡散近似（石塚利之・東京工業大)——反射壁および基本復帰境界，それぞれを用いた近似解法の数値実験による比較．($GI/M/G/c/N$, $GI/E/c/N$ の厳密解との比較)．

• 19—3　マルコフ形待ち行列の relaxation time(小沢利久・東京工業大)——定常状態への近づき方の尺度である，キールソン教授の定義による relaxation time を $M/M/1/K$ モデル，$M/M/S/K$ モデルに関して解析し，数値検討した．

決定モデルとその応用

• 第7回

日時： 12月14日(土)15:00～18:00

場所： 大阪大学基礎工学部数理教室　5階大セミナー室　**出席者：** 14名

テーマ： 大西匡光(京都大学工学部)；Bandrt problem を扱った論文の紹介．

坂口実（大阪大学基礎工学部）；Generalized Secretary Problems with linear Traveling cert.

• 第8回

日時： 1月18日(土)15:00～18:00

場所： 大阪大学基礎工学部数理教室　5階大セミナー室　**出席者：** 15名

テーマ： 栗栖忠(大阪大学基礎工学部)；あるタイミングゲームについて．

中井達(大阪府立大学総合科学部)；順序変更可能な最適停止問題について．

トップ業務の創造的エキスパートシステム

8月には2回今後の作業計画を練り，9月以降は前半の知見により次の小グループに分れて研究を行ないつつある．①トップ業務が必要とする人事異動(3名)②人事異動のプロセス研究・秘密保持可能なハードウエア設計(5名)　③人事異動のエキスパート・システム作成のための様相述語論理研究(5名)，今後この検討会を2月，報告会を3月に行なう．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．